The Women's News, Japan

This paper's aim is to promote peace and equality from the point of view of women.

本紙は女性の視点で平和と平等を推進します

女性ニューズ
The Women's News, Japan

発行所　全国婦人新聞社　〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-7-28宝幸西新宿ビル　電話 03-3343-1846㈹　FAX 03-3348-1890　月3回発行（10日、20日、30日）　購読料 1年 6,500円　振替口座 00150-7-172320（郵送料、消費税込み・前納）

自然の色と味を生かすうすくち
東 ヒガシマル醤油
うすくち醤油発祥の地　兵庫県龍野市　ヒガシマル醤油株式会社

非公開資料の即時公開を

二つの市民団体が戦争被害に関する院内フォーラム開催

立法によって調査会を作り、真相究明せよ

孫の代まで問題残すな

被害と加害の実態を追求

五月十五日、衆議院議員会館で二つの市民団体が『戦争被害等の真相究明調査会に関する院内フォーラム』を開き、「立法によって調査会を作り、真相究明を！」と呼びかけた。

元「従軍慰安婦」へ暫定措置法案の立法急げ

主催したのは「戦後処理の立法を求める法律家・有識者の会」（土屋貢献会長）と「戦争被害調査会法を実現する市民会議」（西野瑠美子、西川重則共同代表）。

法律家・有識者の会は、『戦時中、日本が犯した非人道的行為の実態を明らかにするための調査会を設置する法律を。それによって被害者に謝罪・賠償せよ。高齢化した元「従軍慰安婦」には、暫定的に国庫から支払う暫定措置法案の立法を急げ』と、一九九七年九月に活動を開始。一方、市民会議は、『総理府内に、戦争被害に関する調査会を置き、政府の予算と機関を使って、日本政府および関連機関の持つ非公開の資料をはじめアジア諸国、世界各国の協力を得て、被害と加害の全体像を調査し、それを国民の共有物にせよ』と、九七年十一月に発足。

この日、一般百六十人、国会議員六人、議員代理の秘書五人が参加し、満席。土屋会長は「戦後五十三年もたつのに、政府はいまだ戦争の惨禍、被害の状況を調査しないばかりか隠そうとしたり、歪めようとしたり、また、歴史事実をはっきりさせようとする動きに対して反日的、自虐的行為という者さえいる」と言い、アジア、世界の信頼を得、友好を築くには歴史の事実を認め、歴史認識を一致させること。その作業を進めるための立法を急がねばならない、とあいさつ。

議員の側から、鯨岡兵輔さんは「あの戦争を体験した者として、運動をしている人と自分との間に違いがあるのかないのか、あるとしたらどこが違うのか知りたくて参加した」。鳩山由紀夫さんは「関釜裁判で国会議員の立法不作為が問われた。遅きに逸した思いがするが、真剣に取り組まねばならない問題だ」。栗原君子さんは、アメリカが返却したと言っている七三一部隊の資料の所在について国会で質問したところ、「防衛庁は、そんな資料はないと答弁。隠しているのかも知れない。このように一般市民にはどんな資料が何処にあるかすら分からない。真実追求のためには全ての資料が公開されなければならない」とそれぞれ述べた。

国会議事堂が見える部屋で戦後処理の立法について語りあった

すべての資料を公開せよ！

政府・関連機関の持つ資料が非公開のため歴史解明を遅らせていることは、このあと発題した吉見義明（中央大教授）田中宏（一橋大教授）、常石敬一（神奈川大教授）、田中祐（一橋大教授）さん専門家も口をそろえるところだ。どのくらいの資料があるのか。一つの例として、自治省が移転する際に調査したところ、旧内務省文書も含め積み重ねると二万メートルを越し、手付かずのものも多いということが九四年、新聞で紹介されている。全部が歴史資料ではないにしても、多くの資料が非公開になっていることは想像がつく。

「従軍慰安婦」問題を研究している吉見さんは、資料によって明らかになったのは軍慰安所設置・運営に関する軍の深い関与。ある程度までわかったのは、軍慰安所での使役の強制、未成年者の連行・使役、徴募時の強制などで、これを明確にするには旧拓務省・内務省が持っていた朝鮮総督府・台湾総督府関係の資料、防衛庁の軍人の業務日誌・従軍日誌、旧陸軍の衛生関係資料、外務省・法務省の極東国際軍事裁判・BC級戦犯裁判の資料などの公開が必要だと強調。

「資料調査のほかに関係者や〝元慰安婦〟からのヒアリングが大切。政府が行ったのは韓国人の〝元慰安婦〟十五名だけだが、台湾、フィリピン、インドネシアの人たちのヒアリングを、もっと多くすべきだ」（吉見さん）。

田中さんは「十五年戦争は宣戦布告なし、事変という形で始まり、終始一貫国際法を無視した戦争だった。敗戦後も国際法無視が続き、戦争被害者に対して永田町がやって来たことは、日本人に対しては戦争犠牲者援護法などで手厚い援助をしているにもかかわらず、外国の被害者には一円も出そうとしない。これに対して裁判所も国会も報道も正面から取り上げようとしないと厳しく指摘」。日本の今の状況では私たちの求める法律は作れそうもない。まず公聴会のようなものを発足させて、本気で被害者の声に耳を傾けることが大切ではないか」と提案した。

続いて各地からの活動報告。

神奈川県では『慰安婦』問題に関する国連決議の即時受入、対政府要請を求める請願書』を三十八自治体に働きかけた。二十八自治体が議会にかけ、四つの自治体が意見書を政府に提出した。山口県からは、関釜裁判が控訴された報告、千葉県からは「適正な教科書検定」を求める意見書（中学校の教科書での〝従軍慰安婦〟の記述を「一方的」とした自民党案）が、市民の多くが反対する中可決されてしまった、など厳しい状況にあることが報告された。

最後に議員の田中甲さんは「いま国立国会図書館法の一部を改正する法律に取り組んでいる。図書館内に恒久平和調査局の設置を求めた法律で、目的は皆さんと同じ。互いに情報を交換し、協力し合って立法に持っていこう」と力強く呼びかけた。議員でこの会議に始めから終わりまで参加したのは田中さん一人だった。

海外通信　アメリカ サンタフェ＝㊲　浅葉和子

プエブロ・インディアンと共に

子どもアートフェスティバル開催

一九九三年七月二十五日午前十一時、プエブロ委員会、サンタ・フェ日本人会の協力の元に、サンタ・フェのインディアン・アート・ミュージアムで「ジャパン・プエブロ子どもアートフェスティバル」が開催された。ミュージアムの野外スペースには五百人近い観客が集まり、日本の子どもたちは、浴衣や半てん姿でオープニングセレモニーに参加した。

「二年前から日本とプエブロの交流がスタートしましたが、子どもたちが異文化を学ぶことによって、自らの伝統文化を学ぶ機会になることが何よりすばらしいことです」。北プエブロ・アート委員会委員会長のクラウド・イーグルのスピーチが行われた。

「日本とプエブロの子どもたちとの異文化交流はプエブロの歴史始まって以来のことです。来年は是非、プエブロの子どもたちが日本を訪問して、日本語を覚えて帰ってくることを期待しています」と、北プエブロの部族長ハーマン・ナガヨの挨拶。

日本から中学二年生の播磨英司君、プエブロの子どもから小学校六年生のピクリスプエブロのフランシーヌがスピーチを行った。剣道を習っている英司君は、白かすりの着物に紺の袴姿。フランシーヌは裾に刺しゅうの模様の入った手織りの伝統衣装にカラフルなショールを肩にかけ、白いモカシン（ブーツ）を履いて緊張した面持ち。

つづいて、双方の子どもたちがそれぞれ描いた十メートル近い絵巻物の交換。ピクリスプエブロの子どもたちによる「レインボーダンス」が披露された。

ネイティブアメリカンのイベントには食べ物が出るのが通常なので、会場には日本人会とアメリカ人ボランティアスタッフの協力で作った三百個近いおにぎり、大鍋いっぱいのみそ汁、インディアンブレッド、フライドブレッド、トウモロコシのスープ〝ポソリ〟、チリスープ、野菜サラダなどが用意されていた。

遺跡からの歴史的な重要文化財やプエブロの器などが展示してあるミュージアムの中で、観客たちは紙皿と紙コップを持って会場のあちこちで昼食を楽しんでいる。また、展示場の一角では、サンタ・フェの日本レストランのシェフによる〝寿司作りのデモンストレーション〟が行われ、長蛇の列ができた。日本のミュージアムでは考えられない光景だ。

食事の後は、ミュージアム全館を使って、壁画ペインティング、プエブロの陶芸、コーンジュエリー、ドリームキャッチャー、タイコ、粘土のマスクつくり、折り紙、書道、生け花など十二種類のアートワークショップが行われ、子どもも大人も異文化交流を楽しんだ。また、野外スペースでは、テッケプエブロの子どもたちによる弓と矢によるダンス、サンタ・フェ空手愛好会の子どもたちによる空手のデモンストレーション、スイカ割りなどが行われた。

日本側からも何か伝統的なものを…、ということでいろいろ考えて見たが、常々そういう機会のない日本の子どもたちには、恥ずかしいかな、伝統を披露するようなことは何もできない。そこでみんなで、〝炭鉱節〟にのって盆踊りをやることになった。

スピーチを読み上げるフランシーヌ

核兵器の廃絶を！

新日本婦人の会　保有国に要請行動

インド、パキスタンの相次ぐ核実験、新たな核開発競争の事態に、新日本婦人の会（井上美代会長）は六月三日、東京・銀座で抗議の緊急デモと、核保有の米・英・仏・中・露の各国大使館ならびに日本政府に「核兵器廃絶」を求める要請行動を行った。

集会で井上美代会長は「NPT（核拡散防止条約）、CTBT（核実験全面禁止条約）を決めても、それは五大核保有国の核独占だったり、核兵器開発の抜け道に使われている。米・ネバダ州の実験場では未臨界実験で、地下三百メートルで爆発する小型の核兵器が開発されている。被爆国の女性としてじっとしておれないと、緊急行動を呼びかけた」。

デモ隊は昼すぎに、銀座一丁目の水谷橋公園を出発、「世界から核兵器をなくそう」「日本政府は被爆国の役割を果たせ」とシュプレヒコールをあげながら、数寄屋橋公園付近まで歩いた。参加者は百五人。昼休みに職場からかけつけた女性もいた。

午後の要請行動。米大使館では「最大の核保有国であるアメリカの責任は重い。未臨界実験を一刻も早くやめるべき」と訴えたが、中にも入れず、門前で日本人の警備責任者が応対した。ロシア大使館では、三等書記官が「要請文は大統領と幹部に送る」と約束したが、旧ソ最大の核実験地カザフスタンの実態を知っているかと聞くと、まったく知らなかった。仏大使館では、政務次官が「アメリカ、ロシアなどたくさんもっているところが、まずなくすべき」と話すなど〝他人事〟のよう。

「全体的に核保有国として責任の重大さの自覚が希薄で、責任回避の姿勢が目立った」という。

総理府では「この問題ではたくさんの声が届いている。国民の声として橋本総理に伝える」と、応対した総務課の職員が約束した。

シュプレヒコールをあげ、元気よくデモ行進

「女性ニューズ」は、読者とともにつくる新聞です

女性が力をつけるために

中西珠子さんが「女性連帯基金」設立

「エンパワーメント奨励賞」を

女性が力をつけるための活動を応援します――六月三日「女性連帯基金」（中西珠子代表）事務所が文京区にオープン。『エンパワーメント奨励賞』の応募を呼びかけている。

「女性連帯基金」は前・国会議員の中西珠子さんが、女性の政治的、経済的、社会的エンパワーメント（力をつけること）を国内外を問わず応援しようと昨年、アメリカで法人登録。主に開発途上国の女性を中心に援助してきたが、今年からは同時に日本の女性議員、特に地方議会に女性を増やす活動に力を入れるという。

「日常生活に最も密着した政治を行う地方議会に、五%しか女性がいない。しかも全体の半数の議会は女性が零。これではノーマルな政治とは言えません。環境問題、高齢社会での介護問題などますます女性の視点が必要。地方議会に女性を増やす事は重要な、緊急の課題です」と中西さん。

スタッフは、全国フェミニスト議員連盟で中西さんとともに「女性ゼロ議会撲滅キャンペーン」に取り組んできた三井マリ子（副代表）、中嶋里美（事務局長）さんを中心に、副代表・ジョイス・ゲブル（ニューヨーク大教授）、財務局長・松本智江子（日本秘書協会理事）、広報局長・兼松千恵（日本語学校講師）、同次長・山口智美（ミシガン大博士課程）さんなど、幅広い分野から参加している。

主な活動は、国内外で、政策決定の場に女の声を届けるために活動を続けている個人や団体を応援するための『エンパワーメント奨励賞』。一件につき五十万円、三件（外国も含む）を統一地方選挙（四年ごとに）の一年前に増る。今回は、来年度が統一地方選挙のため、募集日数が短く、七月三十一日が締め切り（当日消印有効）。申請用紙を請求し、記入してファックスかEメールで送り返せばいい簡単なもの。

その他には、「エンパワーメント講座」、ニュースレター『50%』の発行、女性政策ホットラインを毎週金曜日（14～17時）に開設する。外国にはインターネット、国際会議などで呼び掛ける。

同基金では、「新しい政治を一緒に作りましょう」と呼び掛けている。普通会員五千円、維持会員一万円、学生会員二千五百円。

女性連帯基金＝〒112－0002東京都文京区小石川1－13－13サウンドビル5F TEL 03・5805・0031 FAX 03・5805・0030 Eメール wsf@zb3.so-net.ne.jp ホームページ http://www02.so-net.ne.jp/~wsf/

「地方議会に女性を増やすことが急務」と語る中西さん（右）とスタッフたち

たんぽぽ

松田道雄さんが亡くなった。ここ数年、日本の戦後をつくった方々の訃報を聞くことが多く、寂しいが、松田さんは、町の小児科医として忙しくすごしながら、育児の医学の多数の著書で大きな影響を与え、一方「京の町かどから」はじめ忘れがたい随筆や、ロシア革命の研究や哲学的批評など、多様な活動でも異色の人と思う▼私が松田さんを初めて知ったのは「私は赤ちゃん」「私は二歳」（岩波新書）だった。赤ちゃん（患者当人）が主人公で、物語風に話が進むユニークな育児書に目から鱗が落ちる思い。子育て真っ最中の私は、それから松田さんの本を買いあさったものだ▼松田さんの論はなにより患者の立場に立ち、働く母を徹底支援していた。先頃、乳児のうつぶせ寝が突然死をうむと厚生省が発表したが、私が子どもを生んだ六〇年代、外国では「うつぶせ寝」が当たり前で進んだ。やり方だと、盛んに言われていた▼うつ伏せ寝に抵抗感があった私は、松田さんの「うつぶせ寝にすると赤ん坊が大人しいというのは、それだけ赤ん坊の全身の運動が拘束されているから」「赤ん坊の頭の形がいびつなのは寝かせ方でなく、遺伝的なもの。大きくなるまでに自然になおる」という論に安心して仰向けに寝かせた▼当時、乳児の下痢を伴う冬の風邪が「小児仮性コレラ」などと名付けられ大げさに扱われていた。私は松田さんの説を信じ、注射や点滴などせず、どんどん水分をとらせ、慌てず対処した。子どもは二日ほどで回復した▼うれしくて、松田さんにお礼の手紙をさしあげた。面識はおろか、手紙を出すのも初めての私に、手紙を出すのも初めての私に、折り返すように松田さんからの葉書が届いた。松田さんはどんな手紙にも必ずすぐ返事を下さるということを後で知った。日常の礼儀が松田さんの育児をはじめとする数々の論、発言の背景にあるような気がする。

教育史料出版会
岡崎ひろみ 前衆議院議員・新社会党副委員長
国会に窓はない
土井たか子さんへの訣別宣言
●もう土井たか子さんへの幻想を捨てよう！ 混迷する政治の渦の中に日本社会党はのみこまれ消えた。その象徴・土井さんの「政治決断」を再検証する☆1500円
いまなぜ戦争責任を問題にするのか
●映画『プライド』批判！ 「教科書に真実と自由を」連絡会編 近刊☆予1800円
学校的日常を生きぬけ
●宮台真司・藤井誠二 増刷出来☆1600円
授業・「従軍慰安婦」
全国の先駆的授業実践。●川田文子編著 ☆1700円
〒101-0065 千代田区西神田2-4-6 ☎03(5211)7175 FAX0099 ☆税別価

女性議員50%をめざして

「女性の視点」を政策に 政党も徐々に変わり始めた

五月二十三日、横浜のフィールドよこはまで、国際女性の地位協会（赤松良子会長）国連からのレポート（ゲスト・ヒロコ・ヒロオ国連婦人開発基金（UNIFEM）東京事務所長）、「国連婦人の地位委員会の本年度の成果と日本代表団」（ゲスト・ヒロコ・ヒロオ国連婦人開発基金（UNIFEM）東京事務所長）、「国連婦人の地位委員会の報告」（ゲスト・杉浦ゆ子・横浜市女性協会理事

『国益』でなく『民意』を

集会「いのち・くらしから『国益』を問う」

新しいうねり住民投票

国民的議論で安保を考えよう

民意を実現する全国大交流集会「いのち・くらしから『国益』を問う」が五月三十日、東京池袋の立教大学で開かれた（主催・日本ジャーナリスト会議）。

戦前の「お国のために」という言葉が大手を振ってまかり通る近ごろ。しかし新しいうねりも起こっている。それが、「直接民意を問え！」という住民投票ではないかと、まずはじめとあらゆる策謀は共通で、各地の住民投票を闘ってきた市民の報告。

名護、巻町、御嵩町、神戸空港などを闘った（いる）人々が語る。名護で、政府は普天間基地の代替は海上ヘリポートしかないと大宣伝を繰り広げた。その中で二千四百票の差をつけ反対の意思を明らかにした。ヘリ基地反対協代表の宮城康博さんは「私たちは日米安保、日本の行き方を考え、ノーと言った。はじめ国と市の問題だと言っていた大田知事が投票の結果、反対を明確にした。安保廃棄か、少しずつ解消か、国民的議論を進めよう」。

「選挙法」にもしばられない住民投票のとき、ありとあらゆる策謀は共通で、巻町・青い海と緑の会の坂井雅之さんは「もともと自営業の多い保守的な町で長年飲ませ食わせる選挙をしていた。人口三万人のこの町に東北電力の住民投票対策費は四億円と聞いた」。神戸空港・住民投票の会の荒木希さんは「運動が盛り上がるにつれ市は敏感になり、集会をしても、市から莫大な広告費っている地元紙は書かない」。

そんな中で「はじめ産廃処理場ができることなど全く知らなかった町民が、町長襲撃のころから心を一つにした」（みたけ産廃を考える会・長谷川直美さん）。

住民投票の現場からの報告をもとに「民意」を考えた

コーディネーターの石川真澄さん（元朝日新聞記者、新潟国際情報大教授）、今井一さん（ジャーナリスト）、HIV訴訟の川田龍平さんらに、会場も交え、大討論となった。訴訟で基地の爆音被害と闘っている「新横田基地公害訴訟団」の報告もあった。

住民投票で民意を問えという潮流に「議会制民主主義の否定」「住民感情におぼれず、国益を考えろ」という論が強力に流されている問題が指摘された。

直接民主主義憲法違反論に今井さんは「憲法は決して直接民主主義を否定していない。まやかしの論法と闘おう」と言い、「安保問題を沖縄の県民だけにおしつけ、投票させ、ヤマトンチュウは何をしているか！」と怒る。

名護の宮城さんは冷静に「国民の良識を信じつつ、名護は精一杯ノーといった。そこで大田知事は原点に立ち帰った。日本国民も原点に立ち帰ってほしい。が、今の日本で国民投票をしたらガイドラインが認められるかもしれない。それを沖縄県民は知っている」。

会場の参加者から「安保を国民投票にかけよう」「住民同士ネットワークをつくろう」「一部の新聞に国益という言葉が頻繁に出、国益に反し一部の住民の利益のための投票はおかしいと書きまくっている。それへの反論も少ない言論は衰退している」など沢山の意見が出たが時間切れ。

石川さんが「ガイドラインへの反対の動きの鈍いのにはイライラしているが、安保条約の本質、アメリカへ奉仕する日本も見えてきた。安保は、いらないと通告すれば一年で廃棄できる。安保はいらないということを世論にしていこう」とまとめ、司会の仲築間卓蔵さんが、「いま、大きな怒りが起こっている。一回ではたりない。またこんな会をやろう」と結んだ。

試写室

「アルテミシア」

アニエス・メルレ監督

絵画が男性の領域とされていた十七世紀のイタリア・ローマに、画才にあふれる一人の女性が存在した。美術史上、初の女性画家といわれるアルテミジア・ジェンティレスキ（1593～1653）だ。

封建制に基づく規範が支配し、とりわけ女性が縛られていたこの時代に、彼女は男の画家が描くのとは異なる、力強く迫真の表現力をこめた絵画を残している。映画は、アルテミジアの青春期を描いたものだ。

アルテミジアはフィレンツェの伝統を継承する画家・オラーツィオ・ジェンティレスキの娘として生まれ、世界中の芸術家が集まるローマの町で、美術の基礎を学び、進歩的な空気にふれて育った。

一六一〇年、十七歳のアルテミジア（ヴァレンティナ・チェルヴィ）。女性画家への「禁制」に満足できなかった彼女は、鏡に映る自分の裸体を描き、幼なじみの漁師にキスとひきかえに裸を見せてもらい、肉体をデッサンする。娘の才能を認めていた父親は、新進気鋭の画家アゴスティーノ・タッシの工房に、修業に行かせる。

封建制支配の十七世紀

絵画で女性の強さ表現

アゴスティーノと恋愛関係となり、初めての性体験。衝撃を受けながらもアルテミジアは、その感覚を絵の中に投影していく。

二人の関係を知った父親は、強かんの罪でアゴスティーノを告発する。裁判が始まり、屈辱的な検査をされるアルテミジア。男性性器のデッサンを持ち出され、娼婦とまでいわれる。この体験がアルテミジアを変えていく…。

フランスの女性監督・アニエス・メルレは、美術学校時代、アルテミジアの描く『ユーディットとホロフェルネス』を見て、絵から発散される官能と残虐さに魅せられ、アルテミジアの人生を調べるうちに、「レイプ裁判」があったことを知る。アルテミジアの絵には、彼女が被ったレイプの体験が投影されていると感じ、学生時代その人生と絵画史とを平行して描く、実験的な短編映画を作り上げ、さらに劇場用にドラマ仕立ての作品を作った。

恋愛映画だが、そこには、男中心の社会と闘い、差別や偏見を越えて活動した女性の姿が、くっきりと描き出されている。

フランス語版のタイトルは『アルテミジア』。六月から、東京・渋谷「ル・シネマ」で公開。

出かけてみませんか

6月

展scene1～

11日(木)～7月7日(火)10時～18時　※水曜休館　東京ガス横浜ショールーム（JR・関内駅北口5分）　横浜にゆかりの深いオピニオン・リーダー23名の想い出の横浜のシーンを写真パネルとコメント、エッセーで紹介　無料　問合せ…同ショールーム☎045・262・1500、FAX045・262・1058

▼中村梧郎写真展『環境百禍』

13日(土)～28日(日)9時～17時　※6／20休館　エコポリスセンター（東武・ときわ台駅15分☎03・5970・5001）　目に見えない形で進む環境破壊・環境汚染の実態を生活に身近な視点からシャープに写し出す▽6月21日(日)14時　同センター視聴覚ホールでトークライブ（80名）※希望者は往復ハガキで12日必着〒174－0063板橋区前野町4－6－1エコポリスセンター「トークライブ」係　無料　問合せ…同センター☎03・5970・5001

▼地人会第67回公演「デュエットのあとに」

17日(水)～30日(火)　13時（20日、21日、24日、27日、28日、30日）、18時※22日休演　紀伊國屋ホール（新宿駅東口3分）　28歳で難病に冒され42歳の若さで亡くなったチェリスト、ジャクリーヌ・デュ・プレの実話を基にした戯曲。本邦初　三田和代、磯部勉　5000円（全席指定・税込）　前売…チケットぴあ、チケットセゾンほか店頭販売：紀伊國屋インフォメーション　問合せ・申込み…地人会☎03・3354・1279

▼『ナヌムの家Ⅱ』上映会

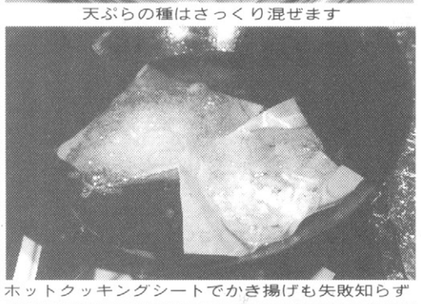
20日(土)14時30分、18時30分　横浜市岩間市民プラザ（相鉄・天王町3分）▽16時30分から講演と質疑・カン・ヘジョン（字幕翻訳者）　1000円（当日1300円）　主催…ピースシアター・ヨコハマ　問合せ…☎045・543・5260（飯盛）、☎045・312・1862（かながわ県民活動サポートセンターレターケースNo.114）

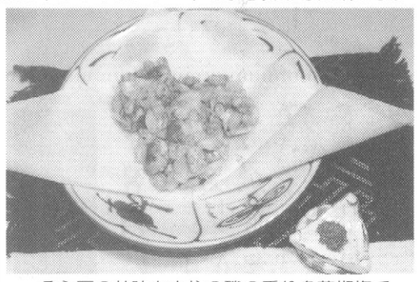
エンジョイスパイス

新鮮メニュー ▶271◀

日本が原産　2通りの呼び方があった　山椒

天ぷらの種はさっくり混ぜます


ホットクッキングシートでかき揚げも失敗知らず


そら豆の甘味と小柱の磯の香りを花椒塩で

今月の、テーマ素材は「そら豆」です。

さやが空に向かっているのでそら豆と呼ばれていますが、別にテンマメ、ナツマメとも呼ばれます。5～6月頃出回り、加熱すると美しいひすい色になるので、料理の彩りもよく、青野菜として大いに使われています。ビタミンC、B1が比較的多く、独特の甘みは「ベタイン」という物質によるものです。

スパイスの使い方には、下ごしらえ、調理中、調理後などの段階がありますが、今回の料理は、そら豆自体のおいしさを生かすため、調理後にスパイスを付けて食べます。

《そら豆と小柱のかき揚げ》

【作り方】

①そら豆はさやから取り出し、豆の底（黒い筋の反対側）に豆に沿って切り込みを入れる。

②鍋に湯をたっぷり沸かし、塩小さじ1（分量外）を入れ、5～6分（少し固め）ゆで、皮の黒い部分をつまみ、豆を出す。

③小柱は水気をふき取り、塩をふる。

④ボウルに天ぷら粉、卵、冷水、パセリをサックリ混ぜ合わせ、その中にそら豆、小柱を加え、種を作る。

⑤揚げ油を中温（170℃）に熱し、種をスプーンに取り、ホットクッキングシートの表にのせ、シートごと、油の中に流し込む。火が通ると、種とシートがはがれる。

⑥カリッと揚がったら油を切り、花椒塩でいただく。

（資料提供・ライオン㈱食品研究所／料理指導・園田ヒロ子）

材料（4人前）

そら豆（さや付き）600g、小柱60g、ねぎ¼本、塩少々、パセリ（ドライ）小さじ1、天ぷら粉（市販品）大油適量、卵1個、冷水大さじ1、あげ油3、ホットクッキングシート（5㎝角）8枚、花椒塩小さじ2

ハウツースパイス

山椒は、日本が原産。昔から薬や調理の素材として親しまれています。

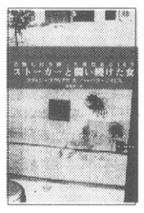
古くは果実を「はじかみ」、若葉を「木の芽」と呼んでいました。この二つの名前のため、いつしかスパイス名を植物名であるサンショウと呼ぶようになりました。

ショウガのことを「はじかみ」と言いますが、正しくは「呉のはじかみ」。中国の呉の時代にショウガが日本に渡来。食べた印象が日本の「はじかみ」に似た辛味があることから名付けられたものです。

本のんほ

「ストーカーと闘い続けた女」

ラヴォン・スカリアス＆バーバラ・デイビス著　秋岡史訳



これは驚くべきノンフィクションである。著者のうちラヴォン・スカリアスはレイプ（ストーキングもされた）の被害者、バーバラ・デイビスは救援センターのコーディネーターである。

アメリカ・テキサス州に住むラヴォンは夜、窓ガラスを割って進入してきた男にレイプされ、切りつけられ血だらけとなった。

彼女がしっかり証言したため犯人は二十年の刑を受けた。

が、かれは七年で出獄、そのことを警察はラヴォンに知らさなかったため、彼女はまたレイプを受ける。今回は足の骨が砕け、手の親指を失うという凄まじいものだった。

ナイロンストッキングを顔にかぶり指紋を完全に隠していたが、ラヴォンは声や態度で同一犯とわかる。しかし、警察は目をつけていた別の性犯罪前科者にこだわり、逮捕は遅れ、その間ラヴォンは犯人のいやがらせの電話に悩まされつづける。

ラヴォンの思いと警察の考えはかみあわず、周囲は偏見にみちている。ラヴォンを支えたのはバーバラら救援センターの人々だった。

ラヴォンは勇気を持って闘い、犯人の終身刑をかちとり、さらに一九九三年テキサス州で「ストーキング禁止法」を成立させるのである。

激しい体験が詳しく生々しく記されているが、犯人が最初の犯行の三年前からラヴォンと顔見知りで当時から無言電話をかけていたこと、さまざまな性的いやがらせをしながら射精はしてないことなど、強姦に対する世間の常識との差をはっきり物語っている。

「レイプは性的満足追求ではなく権力と征服欲の満足の追求である。実際に殆どのレイプ犯人は不能者で、被害者の怖がる顔や声に興奮する」（本書311ページ）という事実を改めて知った。（枝）扶桑社文庫　本体六百四十八円）

「歌え、翔べない鳥たちよ」

マヤ・アンジェロウ自伝　マヤ・アンジェロウ著　矢島翠訳

マヤ・アンジェロウの名は、歌って踊れる女優から作詞・作曲・脚本・演出家に始まり、いまや作家、詩人、エッセイストとして広く知られている。訳者の矢島翠さんの言う通り、肩書は「みごとな『にんげん』というよりほかない」。

一九七〇年刊行の本書は自伝という副書名がついているが、「自分がしたことでなく、社会が私に対して何をしたか」を書いたことで、自伝でありながら小説として読める。それも、第一作（全五部作）である本書は生きることに精いっぱい向き合った少女の、たくましさとおおらかさが満ちあふれた魅力的な読みものだ。

一九二八年、セント・ルイスに生まれたマヤは、両親の離婚で三歳のとき一歳上の兄と父方の祖母のもとに送られる。手首に行先を書いた荷札をつけられて。アーカンソー州スタンプスで、店屋を開いていた祖母もなかなかの人物で、白人と黒人が住み分けられていた小さな町で、幼い孫たちをしっかりと育てた。その母となるまでのこの第一部で、すでに作者その人の人間像が鮮かに浮かび上がってくる。

アメリカで小説もエッセイもベストセラー続きというのもうなづける。（陽）（立風書房　本体二千三百円）

100年をつくる会社
鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社：東京都港区元赤坂1-2-7〒107-8388

クレハ
ラップといえば…
ニュークレラップ 幅30㎝×長さ20m
NEW クレラップ 30㎝×20m 20m
NEW クレラップ フリーザー・電子レンジ -60℃～140℃ 20m
いつでもサッと引き出せて、すばやくむだなく包めるワンタッチラッピング。水蒸気や酸素を通しにくくコシとツキも抜群の素材だから、お料理の味と香りをしっかり包んで逃がさない。おまけに耐熱温度140℃耐冷温度マイナス60℃、フリーザーから出してそのまま電子レンジにいれても大丈夫。といえばもちろん、ごぞんじクレハカットのニュークレラップ。品質の違いは、お使いになれば、きっとおわかりいただけます。
品質もキレものです。
ミニ 幅22㎝×長さ20m　ミニミニ 幅15㎝×長さ20m
呉羽化学工業株式会社　リビング用品部　〒103-8552 東京都中央区日本橋堀留町1-9-11　TEL.03-3249-4653(直)

feminine group
私が、私である色。
髪にやさしい自然のトリートメント成分がたっぷり。クリームタイプで、より染めやすくなって新登場。
●わずか10分で白髪もしっかり染まります。
●色落ちが少なく、きれいな色が長もち。
●持ちやすく、塗りやすい専用コームブラシ付きだからスムーズに毛染めが行えます。
◎おしゃれしらが染めで、2（より明るい栗色）から7（濃い栗色）まで全6色揃っています。
2（より明るい栗色）　3（明るい栗色）　4（やや明るい栗色）　5（栗色）　6（やや濃い栗色）　7（濃い栗色）
フェミニン スピーディカラー クリーム
◎内容量―各1剤50g 2剤50g　医薬部外品　◎希望小売価格―各950円(税抜)
アン・ルイス
●お求めはお近くの薬局、薬店、化粧品店、スーパーでどうぞ。●「使用上の注意」をよく読み、正しくお使いください。
フェミニン株式会社　〒530-8234 大阪市北区堂島1-1-25 TEL(06)344-5774